



IR HAND BOOK

For the INDUSTRY

For the EARTH

For the HUMAN LIFE

第61期 第2四半期のご報告

平成21年4月1日～平成21年9月30日



私たちのビジネス

事業区分		貴金属製品製造		処理・サービス		商品販売	
貴金属関連事業	貴金属事業	貴金属地金		貴金属リサイクル		半導体・電子部材	
		貴金属化成品		治具精密洗浄			
	環境事業	感材銀リサイクル		産廃収集/運搬		VTR (真空加熱分離装置)	
		無害化中間処理					
食品関連事業	水産物		農産物		品質保証		
	畜産物						
					物流		

松田産業グループは、「地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献すること」を企業理念に、限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用を図る「貴金属事業」、きれいな環境を次世代に引き継ぐ「環境事業」、地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する「食品事業」の3事業を中心に展開しています。

当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、決算短信が発表された2009年11月9日現在に当社が入手していた情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

社長インタビュー

中長期の成長戦略を着実に実行しています。

当第2四半期の業績と株主還元についてお話しください。

経営の効率化は進むも減収減益

上半期の日本経済は、海外経済の改善などを背景とした輸出、生産の増加などから企業の業績悪化に歯止めがかかるなど穏やかな回復過程にあったものの、個人消費の落ち込みや雇用情勢の悪化が見られるなど、依然として厳しい状況が続きました。

代表取締役社長
松田 芳明



こうした中、当社グループは貴金属関連事業では引き続き半導体・電子部品業界を中心とした多様な顧客ニーズへの対応に取り組んだほか、食品関連事業では安心・安全な食材輸入を基本に食品メーカーを中心として業容の拡大、品質管理の徹底に努めました。またより強靱な体質を

構築するため、経営の効率化とコストの削減に努めてまいりました。しかしながら前年度下半期以降のエレクトロニクス産業を中心とする需要の低迷や消費不況の影響を大きく受け、当第2四半期累計の連結業績は、売上高69,025百万円(前年同期比37.3%減)、営業利益1,297百万円(同76.0%減)となりました。経常利益については持分法投資損益の悪化から1,190百万円(同78.0%減)、四半期純利益は652百万円(同80.0%減)となりました。

第2四半期配当金は12円

株主の皆様への利益配分につきましては、安定配当の継続を基本としつつ、内部留保とのバランスを考慮した利益還元を行うことによって、皆様のご期待に応えることを基本方針としております。内部留保金につきましては、主に貴金属関連事業における生産設備の増強や研究開発などの成長投資へ有効活用し、将来的な収益力の向上と企業体質の強化を図ってまいります。この方針に基づき、第2四半期末の配当金は12円といたしました。2010年3月期の期末配当金も12円とし、年間配当金は前期と同額の24円とする予定です。

連結財務ハイライト



中長期の戦略、課題、展望についてお話しください。

昨年10月以来、事業環境が激変し、中長期的な経営目標の設定が難しくなった側面はあります。しかし当社グループは、従前から掲げていた「連結売上高2,000億円、経常利益100億円」については今後も中長期的な目標として達成を目指してまいります。

貴金属関連事業では3つの課題に注力

中長期目標の達成へ向け、貴金属関連事業では「海外拠点の強化」「国内拠点整備」「研究開発強化」の3点に注力します。

まず海外拠点の強化については、昨年からの円高傾向によりエレクトロニクス業界の東アジアシフトが加速しているため、優先的に取り組んでいきます。既にタイ、シンガポール、フィリピン、中国で貴金属原料回収、メッキ用化成品の販売等を進展させているほか、台湾では提携企業との間で連携強化を図るなど、東アジアの拠点強化を重点的に進

環境物流強化のため
狭山事業場を開設
(本年7月竣工)



めています(詳細は次ページ参照)。

国内拠点整備については、本年7月に「狭山事業場」を開設し、環境事業系の物流拠点を入間から移しました。これにより小口廃液の取扱いや物流の強化を図るとともに、入間地区の拠点整備を進めてまいります。また各工場設備の処理能力の増強については省エネや老朽化対策などの観点からも十分に計画を練って実行していく予定です。

研究開発強化については、貴金属回収技術、高性能メッキ液の開発などに注力するほか、精密洗浄の品質向上に向けた新規設備投資にも取り組んでまいります。

食品関連事業では品質保証を強化し、業容の拡大を目指す

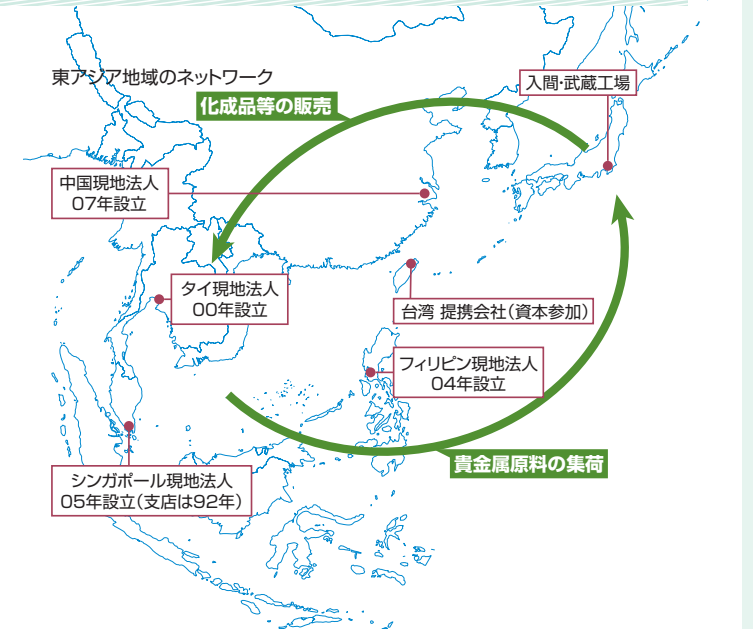
食品関連事業では、エビなどの水産品の販売拡大に成果を上げています。今後も食の安心・安全を守るための「品質保証機能」をさらに強化し、食品加工メーカーのニーズにあった新規商品や新産地の開拓を進めてまいります。また、外食業界、中食業界などそれぞれの顧客ニーズにあったきめ細かな販売戦略も実行し、業容の拡大に努めてまいります。

中長期戦略

東アジアNo.1のリファイナーを目指します

松田産業は「東アジアNo.1のリファイナー」を目指し、日本、タイ、フィリピン、シンガポール、中国、台湾等の拠点で、貴金属リサイクル原料の回収や電子部材、メッキ用化成品等の販売拡大に取り組んでいます。

1992年にシンガポール支店を設立以来、タイ(2000年)、フィリピン(2004年)と拠点展開を進めてきました。近年も以下のような取り組みを中心に、積極的な事業拡大を図っています。今後も成長が見込まれる東アジア地域で、貴金属リサイクル、電子部材・貴金属化成品等の販売、精密洗浄サービスの総合的展開を図ります。



タイ

従来の前処理設備に加え、2007年6月には製錬設備を立上げ、順調に稼働しています。

中国

2007年4月、蘇州に現地法人を設立し営業を開始しました。

台湾

提携企業との間で、資本、技術、営業での連携強化を図っています。

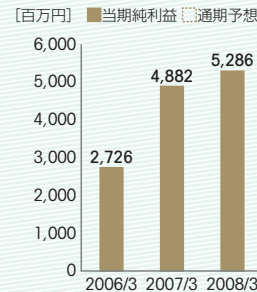
シンガポール・フィリピン

貴金属リサイクル原料の回収・貴金属化成品の販売に注力しています。

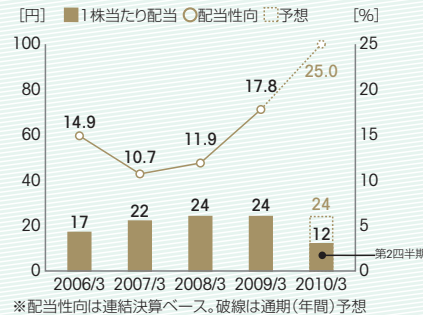


中国現地法人
(蘇州)

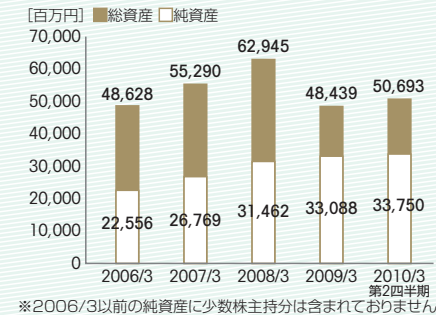
当期純利益



1株当たり年間配当/配当性向



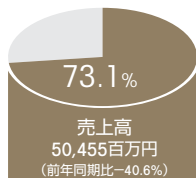
総資産/純資産



事業別概況

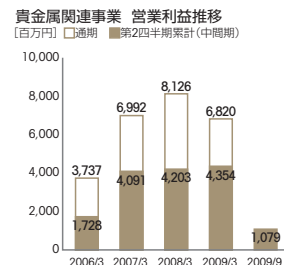
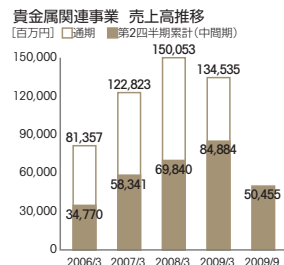
松田産業は、貴金属関連事業を拡大・成長の牽引役部門、食品関連事業を安定的成長部門と位置付けた中長期経営戦略を展開しています。

貴金属 関連事業



貴金属部門

主要対象業界である半導体・電子部品業界が増産に転じた中、当社の貴金属化成品や金ボンディングワイヤの販売量も回復傾向をたどりました。また、同業界からの貴金属原料回収も当上半期の半ばから増加傾向となりました。しかし、前年度下半期以降の同業界における生産活動低下の影響は大きく、貴金属相場の下落とともに、貴金属製品の売上減少の主要な要因となりました。



先端技術ニーズに応える品質創造とリサイクルサービスの提供

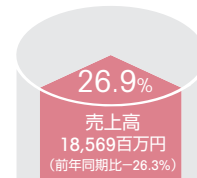
事業分野	品目	主な取り組み
回収・製錬	金	▶ 金を中心とした増産体制を構築 ▶ 鉱源の多角化と回収率向上への技術開発を推進
	銀	
	白金族	
環境処理	廃酸・廃アルカリ	▶ 全国をカバーする収集運搬許可網の活用 ▶ 自社処理設備と各地の処理ネットワークを構築
	PCBなど	
表面処理	貴金属化成品	▶ 先端ニーズに応えるメッキ用化成品の開発・製造 ▶ 薄膜形成装置の治具の高品質洗浄、再生加工
	精密洗浄	
加工	金ボンディングワイヤ マイクロボール	▶ 日鉄マイクロメタルによる高品質商品の開発・製造 ▶ 当社の営業ネットワークによる各種商品販売
	薄膜形成材料など	

環境部門

前年度下半期以降、排出元である製造業顧客の減産に伴う産業廃棄物の排出量の減少が依然として続いています。このことから、取扱量は前年同期に比べ減少しました。

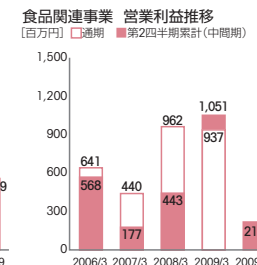
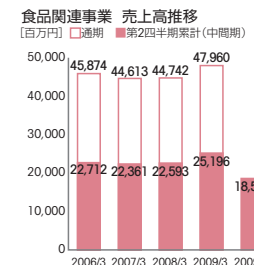
これらの結果、貴金属関連事業の売上高は50,455百万円(前年同期比40.6%減)、営業利益1,079百万円(同75.2%減)となりました。

食品 関連事業

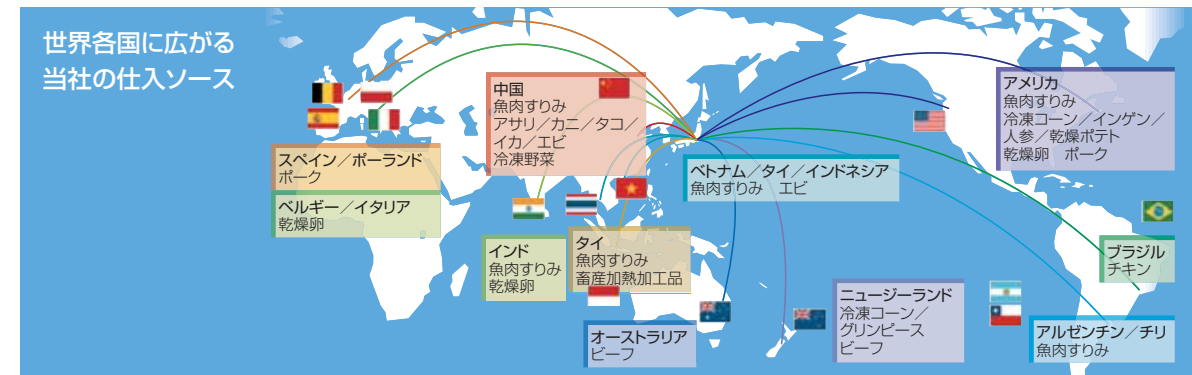


食品部門

食品関連事業では、景気後退と雇用不安による消費者心理の著しい悪化によって、低価格品志向が強まるなど厳しい事業環境が継続しました。このような状況下で、水産品においてはエビなど一部の商品の販売増加があったものの、すりみなどの販売量の減少と販売価格の低下から売上高は前年同期に比べ減少しました。鶏肉等の畜産品、野菜等の農産品も、数量減に加え価格下落が影響し、売上高が減少しました。



これらの結果、食品関連事業の売上高は18,569百万円(前年同期比26.3%減)、営業利益218百万円(同79.2%減)となりました。



連結財務諸表

連結貸借対照表

資産の部	(単位:百万円)		負債の部	(単位:百万円)	
	前期 平成21年3月31日	当四半期 平成21年9月30日		前期 平成21年3月31日	当四半期 平成21年9月30日
流動資産	35,169	37,125	流動負債	13,239	14,976
現金及び預金	7,891	4,206	支払手形及び買掛金	7,506	8,645
受取手形及び売掛金	13,979	16,254	短期借入金	630	30
商品及び製品	5,473	6,684	1年内返済予定の長期借入金	340	340
仕掛品	130	271	リース債務	48	59
原材料及び貯蔵品	4,873	4,442	未払法人税等	1,428	528
繰延税金資産	940	768	賞与引当金	607	637
未収入金	546	2,866	未払金	681	2,870
その他	1,355	1,660	その他	1,996	1,863
貸倒引当金	△ 20	△ 29	固定負債	2,111	1,967
固定資産	13,270	13,568	長期借入金	1,267	1,097
有形固定資産	9,053	9,434	リース債務	159	167
建物及び構築物(純額)	2,000	2,422	退職給付引当金	349	333
機械装置及び運搬具(純額)	1,227	1,129	役員退職慰労引当金	332	358
土地	5,148	5,355	その他	3	11
リース資産(純額)	208	225	負債合計	15,351	16,943
建設仮勘定	328	152	純資産の部		
その他(純額)	140	148	株主資本	33,470	33,785
無形固定資産	1,423	1,289	資本金	3,559	3,559
のれん	12	—	資本剰余金	4,008	4,008
その他	1,410	1,289	利益剰余金	26,683	26,998
投資その他の資産	2,792	2,843	自己株式	△ 780	△ 781
投資有価証券	1,562	1,637	評価・換算差額等	△ 382	△ 34
繰延税金資産	220	180	その他有価証券評価差額金	104	156
その他	1,230	1,233	繰延ヘッジ損益	△ 174	△ 1
貸倒引当金	△ 220	△ 207	為替換算調整勘定	△ 312	△ 190
資産合計	48,439	50,693	純資産合計	33,088	33,750
			負債純資産合計	48,439	50,693

POINT

資産の部

売上債権、たな卸資産、未収入金の増加と現預金の減少等により流動資産が1,956百万円増加したことなどから、総資産は前期末より2,254百万円増加しました。

負債の部

借入債務や未払法人税等が減少した一方、未払金や買掛金が増加したことなどから、前期末に比べ1,591百万円増加しました。

POINT

純資産の部

当期の利益等により株主資本が増加したほか、評価・換算差額等が増加したことなどから、前期末に比べ662百万円増加しました。

連結損益計算書

	(単位:百万円)	
	前四半期累計 平成20年4月1日～ 平成20年9月30日	当四半期累計 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
売上高	110,081	69,025
売上原価	98,969	62,487
販売費及び一般管理費	5,706	5,239
営業利益	5,405	1,297
営業外収益	206	55
営業外費用	190	162
経常利益	5,422	1,190
特別利益	2	11
特別損失	31	22
税金等調整前四半期純利益	5,393	1,180
法人税、住民税及び事業税	2,548	471
法人税等調整額	△ 419	56
四半期純利益	3,264	652

営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権、たな卸資産の増加が買掛金の増加を上回ったことなどから、△1,777百万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

土地の取得や環境事業の拠点整備等を通じた有形固定資産の取得などから、△835百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長短借入金の返済と配当金の支払等から、△1,136百万円となりました。



2010年3月期
第3四半期決算は、
2010年2月8日16時に
当社IRサイトで
発表予定です。

松田産業

検索

<http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html>

連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	前四半期累計 平成20年4月1日～ 平成20年9月30日	当四半期累計 平成21年4月1日～ 平成21年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,226	△ 1,777
税金等調整前四半期純利益	5,393	1,180
減価償却費及びその他の償却費	510	571
減損損失	—	3
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 47	△ 4
賞与引当金の増減額(△は減少)	106	30
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 27	△ 16
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△ 104	25
受取利息及び受取配当金	△ 14	△ 11
支払利息	47	17
持分法による投資損益(△は益)	△ 74	25
投資有価証券売却損益(△は益)	11	—
投資有価証券評価損益(△は益)	17	7
固定資産除売却損益(△は益)	1	△ 1
売上債権の増減額(△は増加)	△ 899	△ 2,244
未収入金の増減額(△は増加)	1,570	△ 2,331
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 634	△ 825
仕入債務の増減額(△は減少)	692	1,050
未払金の増減額(△は減少)	△ 1,595	2,281
その他	152	△ 203
小計	5,106	△ 444
利息及び配当金の受取額	12	15
利息の支払額	△ 45	△ 17
法人税等の支払額	△ 1,847	△ 1,330
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 615	△ 835
有形固定資産の取得による支出	△ 333	△ 797
有形固定資産の売却による収入	1	—
無形固定資産の取得による支出	△ 394	△ 46
投資有価証券の取得による支出	△ 4	△ 6
投資有価証券の売却による収入	20	—
その他	94	16
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,991	△ 1,136
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 1,500	△ 600
長期借入れによる収入	300	—
長期借入金の返済による支出	△ 470	△ 170
自己株式の取得による支出	△ 7	△ 1
配当金の支払額	△ 313	△ 337
その他	—	△ 28
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 129	62
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	490	△ 3,685
現金及び現金同等物の期首残高	2,724	7,888
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,214	4,202

POINT

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益、減価償却費及びその他の償却費、減損損失、貸倒引当金の増減額(△は減少)、賞与引当金の増減額(△は減少)、退職給付引当金の増減額(△は減少)、役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)、受取利息及び受取配当金、支払利息、持分法による投資損益(△は益)、投資有価証券売却損益(△は益)、投資有価証券評価損益(△は益)、固定資産除売却損益(△は益)、売上債権の増減額(△は増加)、未収入金の増減額(△は増加)、たな卸資産の増減額(△は増加)、仕入債務の増減額(△は減少)、未払金の増減額(△は減少)、その他

POINT

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出、有形固定資産の売却による収入、無形固定資産の取得による支出、投資有価証券の取得による支出、投資有価証券の売却による収入、その他

POINT

財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の純増減額(△は減少)、長期借入れによる収入、長期借入金の返済による支出、自己株式の取得による支出、配当金の支払額、その他、現金及び現金同等物に係る換算差額、現金及び現金同等物の増減額(△は減少)、現金及び現金同等物の期首残高、現金及び現金同等物の四半期末残高

プラチナ [Pt]

「プラチナチケット」「プラチナシート」など、希少価値が高いことの代名詞でもあるプラチナ。産出量は金よりはるかに少なく、まさに「レアメタル」を象徴する金属のひとつですが、その用途はますます広がっています。

「永遠」を象徴する安定性

「永遠の愛」を誓うマリッジリングには、プラチナがよく用いられます。プラチナジュエリーの輝きが失われにくい理由は、磨耗しにくく、融点が高く、酸化しにくいといった化学的安定性によるものです。そのため宝飾品以外でも、心臓ペースメーカー、度量衡の原器、るつぼ、白金耳などで用いられており、より身近なところでは白金カイロの発熱装置、万年筆のペン先（イリジウムとの合金）、フルートなどにもプラチナが使用されています。



松田産業のプラチナ関連ビジネス

松田産業は金、銀だけでなくプラチナ、パラジウムといった白金族においても高度な技術で確実な回収製錬を行い、地金やメッキ用化成品、薄膜形成材料等として供給しています。技術力の高さと取扱高は業界でも常にトップクラスにあり、顧客からも高い評価と厚い信頼をいただいています。今後も引き続き鉱源の多角化と回収率の向上に取り組み、さらなる成長を図っていきます。

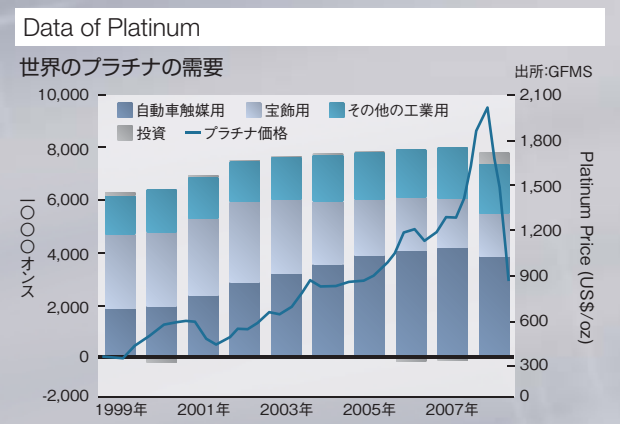


プラチナを用いた熱電対
(温度を測定するセンサ)

排ガス浄化や燃料電池、美容・ヘルスケアなどでも活躍

プラチナには触媒としても高い能力があり、自動車の排ガス浄化装置や燃料電池にも利用されています。またナノテクノロジーで微粒子化された「白金ナノコロイド」は、触媒作用により皮膚表面や腸内の活性酸素を低減するとされており、化粧品や美容機器、医療資材、健康食品などで用いられています。

プラチナの触媒作用に着目した産業用途	
分野	用途
自動車	排ガス浄化装置で使用(自動車メーカー等)
エネルギー	燃料電池で使用(自動車・電機メーカー等)
家電製品	空気清浄機、冷蔵庫、美顔器等で白金ナノコロイドを利用(家電メーカー)
化粧品	化粧水、美容液等に白金ナノコロイドを配合(化粧品メーカー)



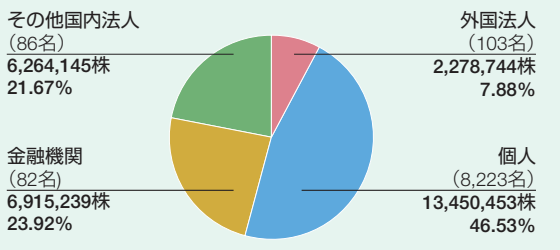
松田産業のプラチナ地金は、東京工業品取引所、ロンドンプラチナパラジウム市場にブランド登録され、高品質が保証された地金として各国で流通しています。

Information

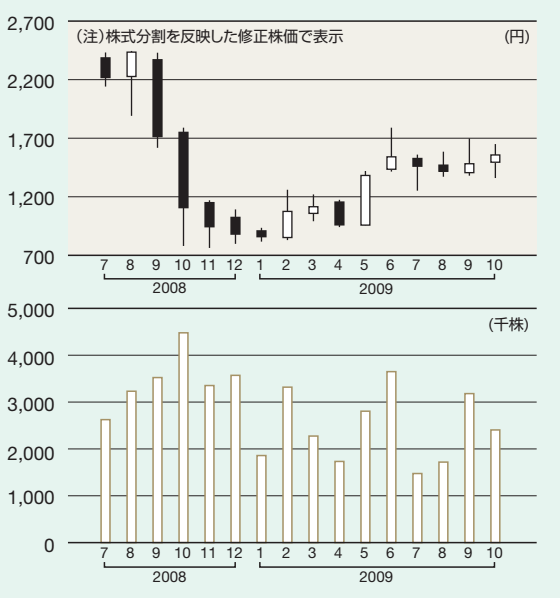
株式の状況 平成21年9月30日現在

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	8,494名

株式の分布状況 平成21年9月30日現在



株価・出来高推移



会社概要 平成21年9月30日現在

商号	松田産業株式会社
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-26-2
設立年月日	昭和26年6月18日
資本金	3,559百万円
従業員数(連結)	871名
主な事業内容	貴金属回収製錬、 貴金属地金・電子材料他の販売、 食品加工原材料の卸売、 産業廃棄物の収集・運搬・処理
会計監査人	新日本有限責任監査法人

役員一覧 平成21年9月30日現在

代表取締役社長	松田 芳明
取締役副社長	對馬 浩二
専務取締役	徳永 庸夫
常務取締役	細田 顕治
常務取締役	片山 雄司
取締役	田代 芳孝
取締役	船本 正則
取締役	佐々木 隆茂
取締役	清水 克之
取締役	山崎 隆一
取締役	伊藤 康之
監査役(常勤)	鈴木 幸一
監査役	谷 哲夫
監査役	石原 猛男
監査役	熊坂 博幸

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

	お手続き、ご照会等の内容		お問合せ先
特別口座に記録された株式	<ul style="list-style-type: none"> ▶特別口座から一般口座への振替請求 ▶単元未満株式の買取(買増)請求 ▶住所・氏名等のご変更 ▶特別口座の残高照会 ▶配当金の受領方法の指定(*) 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> ▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	[手続き書類のご請求方法] ▶音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ▶インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufj.jp/daikou/
証券会社等の口座に記録された株式	<ul style="list-style-type: none"> ▶郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿 管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
	<ul style="list-style-type: none"> ▶上記以外のお手続き、ご照会等口座を開設されている証券会社等にお問合せください。 	口座を開設されている証券会社等	にお問合せください。

(*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主優待



1 対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上保有の株主様を対象いたします。

2 優待の内容

一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。

3 贈呈の時期

毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

 **松田産業株式会社**

証券コード: 7456

東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル
TEL 03-5381-0001 (代表)

